

にひやくはつか

二百廿日豊年市民祭

江戸時代から継承される豊年祭。その起源や歴史、そして祭りを継承する人々の思いを聞きました。



1994年に撮影された豊年市民祭の写真。当時の賑わいを感じられます。

豊年祭のはじまりとこれまでの歴史

三百年以上前の江戸時代から行われていたとされる「二百廿日豊年祭」。古来より、台風が来る日の予想をすることは、米作りにおいても、漁師たちにとっても重要なことでした。雑節のひとつである「二百十日」「二百二十日」は、立春から数えて210日、220日のことで、現在の暦でいうと、9月1日と、11日あたりになります。台風が来るとされてきたその厄

日を無事に過ごし、豊年を喜ぶことからこの祭りは始まったとされています。

豊年祭を起源としながらも、時代とともに廿日市のいくつもの商店街が、それぞれ趣向を凝らし、祭りを盛り上げてきた歴史があります。

さらに、廿日市市と廿日市商工会議所が運営に関わるようになり、市民のための祭りへと変化。名称も「二百廿日豊年市民祭」と呼ばれるようになりました。

浴衣を着る最後の機会となる祭りとして、また秋の訪れを感じる最初の秋祭りとしても、長く人々に愛され、毎年たくさんの人出で賑わっています。

鬼や天狗が商店街に！ 伝統の神輿と獅子舞

祭りの主な会場は、天満宮と廿日市駅の南側に十字のように位置する「けん玉商店街」と「本通り商店街」です。当日は「ハナ」と呼ばれる鬼や天狗が各地に出没するのも、この祭りの名物。厄落としや縁起をかつぐ意味もあり、遭遇するとラッキーですが、小さい子どもは泣いてしまうことも…。

また、祭りを象徴する神輿行列や獅子舞は、もともとは天満宮が行ってきました。現在では神輿は「廿日市祭礼」という団体に、獅子舞は「佐方獅子舞保存会」に引き継がれました。後継者がいなくなった時、どちらも当時の若者たちが名乗り出てくれたそうです。

「廿日市だけでなく近隣からもたくさんの方々がこの祭りの伝統を守ってくれていることに感謝しています」と企画委員会

ほか、天満宮でのおみくじ、子どもが楽しめる「ちびっこ広場」、アクセサリーや小物を販売する「マルシェ」など、幅広い年代の方が楽しめるイベントも各所で用意されています。

「商工会議所としては、経済を盛り上げるのももちろん、文化の継承も大事だと思っています。親子が代々遊びに来てくれて、思い出として心に残ってくれたらうれしいです」と廿日市商工会議所・高場聡志さん。

時代とともに変化しながら開催されてきた「二百廿日豊年市民祭」。次の世代へも受け継がれていきます。

の委員長である桑本謙三さんは話します。



企画委員会委員長 桑本謙三さん

コロナ禍を経て 次の世代へ

コロナ禍で2年の中止を経て、2022年には3年ぶりの開催となりました。そこでは、久しぶりに和太鼓の演奏が行われ、高台にある天満宮から太鼓の音が響き渡る、壮観な光景だったそうです。今年もその和太鼓が見られる



和太鼓集団「打魂(だこん)」の演奏の様子。



実行委員会 会長 岩根秀樹さん

『廿日市祭礼』が神輿を担ぎ、商店街を練り歩く様子

三百年を 歴史超える

information

二百廿日豊年市民祭

開催日時 2024年9月14日(土)
14:00~21:00
※雨天決行、ただし台風の場合は中止

会場 廿日市市中央市民センターおよび周辺商店街

駐車場 専用駐車場はありません。
公共交通機関をご利用ください。

駐輪場 臨時的駐輪場をご利用ください。
①天満宮様駐車場
②広島市信用組合廿日市支店様駐車場

アクセス JR廿日市駅から徒歩約7分

お問い合わせ 0829-20-0021 (廿日市商工会議所 振興課)

<https://fes.cci201.or.jp/>